

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成26年度 第3回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成26年7月23日(水)10時00分～12時00分	
開 催 場 所		市庁舎 202会議室	
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、末澤委員、岡田委員、田中委員、廣末委員、米田委員、真鍋委員、岸本委員 計 9名	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育長、森下総務調整室長、上中学校教育室長、柳川社会教育室長、松山まなび支援室主幹、山元こども家庭室長、沼人権推進室長兼人権推進課長、井上社会教育室主幹、西垣(囑託職員) 計9名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 0名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第		1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)阪神北地区社会教育委員協議会総会の報告について (2)兵庫県社会教育委員協議会・研修会の報告について (3)阪神北地区社会教育委員協議会第2回理事会の報告について (4)各協議会の会議報告について (5)その他 4. 議題 (1)第2次川西市生涯学習計画について (2)その他 5. その他	
会議結果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO. 1

議長	<p>ただいまから、第3回の社会教育委員の会を開かせて頂きます。田中委員が遅れて来られます。また、西谷委員から欠席の連絡が入っています。それでは、開会にあたり、事務局からご挨拶をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">(社会教育室長 挨拶)</p>
議長	<p>市長部局の方からお願いします。</p> <p style="text-align: center;">(こども家庭室長 挨拶)</p>
議長	<p>それでは、2の前回の会議録の承認について。</p> <p style="text-align: center;">(承認)</p>
議長	<p>3の報告事項で(1)、(2)、(3)につきまして、事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>(1)「阪神北地区社会教育委員協議会総会」について 日時平成26年6月17日 会場大阪青山歴史文学博物館 議題平成25年度の事業報告・会計報告 平成26年度の新役員の承認、年間研究テーマ、事業計画案・予算案について 施設見学:大阪青山歴史文学博物館、主任学芸員小倉先生により施設の説明と展示解説 所蔵品展「戦国武将の手紙」</p> <p>(2)「兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会」について 日時平成26年7月2日 会場ホテル北野プラザ六甲荘 議題平成25年度の事業報告・会計報告 平成26年度の役員選出、活動目標案・事業計画案・予算案等について <研修会> 講師:文部科学省生涯学習政策局社会教育課長、谷合俊一氏 題名『社会教育の一層の活性化に向けて～社会教育委員の皆様にご期待すること』</p> <p>(3)「阪神北地区社会教育委員協議会第2回理事会」について 日時平成26年7月8日 会場川西市中央公民館 議題第1回研修会の開催及び第2回研修会の内容について 第3回理事会の日程と第4回理事会の日程について その他各市町の情報交換</p>
議長	<p>県の総会、研修会には、私とE委員とB委員と事務局の方で出席しましたが、何か追加等々ご</p>

審 議 経 過

NO. 2

E 委員	<p>ございませんか。</p> <p>研修会で文科省の課長が、方向性を言われた。社会教育は、包括的に色々な地域、学校、家庭を束ねて繋がっていくという意味では、大変重要な位置にあるのだが、それをリードして行く立場の社会教育主事が非常に少なく、その役割というのがそれぞれの地で軽くなっている。社会教育主事の必置というのをやめてほしいという陳情が文科省に来ているが、文科省は現状のままの方向で考えている。それから学校支援地域本部の活動がこれからとても大事な役割を果たすという話で、ただそれがうまく機能していくのかどうかというと、非常に難しいところがあるが、国として後押しをしていくとのこと。また、放課後子どもプランというのがあり、放課後子ども教室と留守家庭児童育成クラブを一体型した様なイメージを描いているのだという話が印象的でした。土曜日のプラン、プロジェクトでは、地域の人と学校が一体になれる様な取り組みで、授業ではなく、できるだけ地域の人が入り込んで学校で何かをする様な土曜日に持っていかれたらどうかという、その辺りの方向性もはっきりわかったと思います。</p>
B 委員	<p>私は、社会教育委員は市民と行政のパイプ役という事を再認識しました。</p>
議長	<p>社会教育の位置付けの部分をはっきり言い切っていない。国の方も文科省と厚労省の間で、まちづくりの位置づけの部分と生涯学習の位置付けの部分がふらついている。また社会教育主事の位置付けについても非常に衰退的である事についての問題提起もされていました。これは、各地域、自治体の考え方によると思うのですが将来的にやはり危惧されておりました。次に、(4)各委員の方で各協議会の報告や連絡、(5)その他でなにかありましたらお願いします。</p>
A 委員	<p>土曜日の学校の活動について、その方向に向けて文科省は進んで行きたいということですか。資料の土曜日の教育活動推進プロジェクトなど。元々土曜日を休みにする時は、ゆとり教育を目指して作ったと思うのですが、それがうまく行かなかったという事でこういう方向が出てきたという事ですか。</p>
E 委員	<p>最近、文科省もゆとり教育は失敗だったという事を言える様になりました。新教育課程の文科省の説明でその様に言われています。</p>
A 委員	<p>まず、ゆとりの時間を作りましょうというコンセプトであったかと思うのですが、それではうまく活用ができていないので、今度はプロジェクトを立ち上げて、土曜日は基本的には学校の授業は休みという事で、それ以外の活動を地域の方の協力などを得ながら子ども達に提供しようという事になってくるのですか。</p>
E 委員	<p>教師の協力を得てということになると労働基準法の縛りがありますので、学校教育課程は月から金の中できちんとする事によって、土曜日は地域の人達が入り、特技の趣味や教養を高める様な教室を持つというのが望ましいという方向の様です。</p>
A 委員	<p>具体的な活動場所は、学校を拠点にしていくということですか。</p>
E 委員	<p>場所的にはまだはっきりしていませんね。</p>

審 議 経 過

NO. 3

議長	<p>まだはっきりとは文科省の課長は言ってはいないです。所管が厚生労働省絡みの所と教育委員会という部分のずれがある。</p>
事務局	<p>土曜日の件につきましては、土曜チャレンジ事業と言うのですが、市の方にも事業としては下りて来てはいますが、現在実施しています放課後子ども教室との整合の部分や、土曜に一体どのような事業を組み立てていけば良いのかという所があり、そういう部分が、十分に整理ができておらず、まだ川西市の方では実施ができていないという状況です。</p>
議長	<p>学校支援地域本部の件もあるが、全国的には実施率はまだ2,30%という事です。また平日の部分では、川西市は「きんたくん学びの道場」という形で実施しており、それぞれの自治体が独自にやっているのですが、そのあたりを整理していかなければと感じています。これは行政で、担当部署が分れているので、行政でも問題として提起されていることと思います。それでは、教育長がお見えになりましたので、よろしくをお願いします。</p>
教育長	<p>(教育長 挨拶)</p> <p>社会教育関係の市長施設方針等を踏まえた進捗状況報告</p>
E委員	<p>「きんたくん学びの道場」は、指導者は誰がやって、地域の人に関わっておられるのか。教材はどんな物を使用されているのか、その辺りはどういう内容になっているのですか。</p>
事務局	<p>「きんたくん学びの道場」の支援員の方がいます。学校によっては地域の方もいますし、遠方から来られる方もいます。支援員は、教員免許持たれている方で、教材につきましては、この「きんたくん学びの道場」というのは、学校と家庭の中間で自主的に勉強しようという事ですので、子ども達が課題を持って来てそこで学習するという様な形でさせて頂いています。</p>
E委員	<p>学校の先生の関わりはないのですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
議長	<p>土曜日ではなく、平日ですか。</p>
事務局	<p>平日の月から金の間で、それぞれ学校で指定された日という事です。</p>
E委員	<p>何日間、設定されていますか。</p>
事務局	<p>だいたい週2日くらいです。</p>
E委員	<p>それくらいでしたら、なぜ10校なのですか。全校でできるのではないですか。</p>
事務局	<p>支援員を配置しているのが小学校10校という事です。中学校もおこなっているのですが、部活の関係で、毎週2回というのができないため、集中して、例えば夏休みの補習学習の所に行</p>

審 議 経 過

NO. 4

	<p>って頂くとか、そこでは学生ボランティアの方が補習学習の支援をするという様な形を取っています。</p>
E委員	<p>中学校の事情はよくわかりますが、小学校は子ども達に時間があるだろうと思う。放課後子ども教室がある所と「きんたくん学びの道場」をされる所と調整をされると思いますが、その辺の整合性がうまくいっているのかどうか。どの学校もやったら良い事でありながらも自主的にという事は、自習教室みたいなものという事ですか。</p>
事務局	<p>これをはじめたきっかけというのは、それぞれの学校の中で学力に対して、学力というのは、学習する意欲とかそういう機会ですが、そういう所において、少し課題があるという学校に対して「きんたくん学びの道場」の支援員を配置しようというところからスタートしたという事です。ある一定の期間行い、そこで課題にある程度、道筋が付けば、学校を替えていって、その課題がみられるところにつけていきましょうという所で徐々に拡充をしながら、今年、10校という様な形でさせて貰ったという事です。それに支援員の方の賃金も絡んできますのでそういう事も含めて検討しています。</p>
E委員	<p>わかりました。</p>
H委員	<p>支援員を配置して頂いているのですが、平日は水曜日と金曜日の2時間程度。放課後1時間から1時間半位やっています。基本的には宿題をやるという事です。支援員の方がプリントを用意したりとかもしています。子どもは友達と一緒に宿題とかができるので、すごく楽しそうにやっている。夏休みも午後にやっているのですが、午後は集まるかなあと思っていたのですが、70人くらい集まっています。教室を二つに分けたので、支援員の先生だけでは回れないので担任も入ってやっている。教師の方も子どもに関わる時間ができるという事と子どもも嫌がらずにやっているということで、指導がしやすいみたいです。</p>
事務局	<p>「きんたくん学びの道場」は放課後に取り組みを支援員の方と一部学校関係者の協力を得て進めているところです。「学校支援地域本部事業」というのは、学校から要請があってそれに対して教育課程の中で支援をして行く。「放課後子ども教室」はあくまでも教育課程外ですから土曜日に、例えば囲碁とか吹奏楽とか習字とかESSとかやっている所があります。そういう意味で取り組みのスタンスとか体制が違いますので、そこを整理しながら今進めているところです。「学校支援地域本部事業」は、社会教育室が窓口で、「放課後子ども教室」は、こども・家庭部にお願いしています。</p>
議長	<p>土曜日の教育活動の動きの部分は、教育委員会、それとも市長部局のどちらになるのですか。</p>
事務局	<p>ここも少し難しい所で、事業の目的や切り口をどこに求めるかという事で変わってくるかと思えます。やはり学力の向上という事をメインに置くという事でしたら、こども・家庭部の方では手に負いかねるということになってきますし、学力の向上を切り口、目的としながらも、地域の方の力を借りてという事になってくると、放課後子ども教室でのノウハウがこども・家庭部の方にはあるということにもなってきた、少し整理をしていかなければならない課題があるという認識です。</p>

審 議 経 過

NO. 5

議長	<p>それでは、次の議題の方に入ります。「第2次生涯学習計画について」という事で事務局の方で前回提起して頂いていますが、改めて事務局の方から概略の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(第2次生涯学習計画について説明)</p>
議長	<p>計画の目的、位置付けについて、今、説明があった部分でなにかございませんか。</p>
A委員	<p>「川西らしさ」というのはどういう事を具体的にイメージされているのか。そこをはっきりさせ全員が共通の認識を持たないと計画がぶれるのではないかと思う。</p>
議長	<p>これは、15年度の第1次の時の見出しです。</p>
A委員	<p>「川西らしさ」が、10年の間に社会が変わるにつれて、例えば川西の人口、年齢構成が変わり、「川西らしさ」も変わってきたとか。工場が住宅化してベッドタウン化してきた。そのことで、子育てがしやすい町というのが「川西らしさ」なのか、また都市とは違って周りにすぐ自然があるのですから、それを活かした都市と自然とを融合させた町づくりというのが「川西らしさ」なのかとかがよく分らない。</p>
議長	<p>今の件は、第2章の課題の所でなぜ改めて10年後も立てなければいけないかということをお話していると思うのですが、事務局どうですか。</p>
事務局	<p>その様に捉えて頂ければ結構です。</p>
議長	<p>第1次の計画について、どういう評価かという所は見えない部分がありますが。</p>
C委員	<p>「出会い」「ふれあい」「支え合い」と3頁に書いてありますが、これは語呂合わせではないので、この辺は本当にしっかりやって欲しい。それと、教えて頂きたいのですが、18頁のまん中「生涯学習関連施設の連携」という所に書いてある、リカレント教育のリカレントのスペルとどういう意味なのかを教えて欲しい。</p>
E委員	<p>生涯学習用語ですね。</p>
C委員	<p>横文字を使ったらいいというのはもう駄目だと思う。日本語で書けばいいのに、なぜわかりにくいこんな言葉を使って日本の教育の中でやるのかというのが疑問なのです。ファッション用語ならファッションでバンバンとそれをやるのがファッションで、それはそれでファッション用語ですからいいのですが、教育用語の中に横文字入れて、かえってわかりにくい表現ではなからうかというふうに思うので説明してほしい。</p>
議長	<p>リカレント教育とは、専門用語で、教育界ではよく使う言葉なのですが。</p>
F委員	<p>リカレントは反復とか循環とか回帰とかの意味があり、社会人が必要に応じて学校へ戻って再</p>

	<p>教育を受けるその循環とか反復型の教育体制をいうらしいです。</p>
C委員	<p>調べてはきたのですが、なぜそんな事までそこまでやるのかと。</p>
E委員	<p>カレントはそういう潮流、潮の流れ、リは再びその流れに戻すという事ですから、世の中に、現代化に合わせていくという。</p>
F委員	<p>横文字を使わずに、普通に言ったらいいということですよ。</p>
C委員	<p>日本の国で、なぜそんな無理やり教育の所に訳の分からない横文字を使うのかなと思う。</p>
E委員	<p>昭和40年代位のユネスコが提唱して、家庭教育、成人教育の方策の中の延長上に出て来るので、その世界で、教育用語として使ったものを日本に持って来たからそのままなのです。だから、日本らしい言葉にすれば良いという。</p>
C委員	<p>そうです。</p>
事務局	<p>それにつきましては、今回はこのままこれにかっこ書きでその中に入れるか、全く横文字をやめて、反復教育なりの文言に変えるかこちらの方で検討させて頂きたいと思います。</p>
C委員	<p>一般的に横文字になっているものまでやめるとは言いませんが、もう少し一般の人が読んでも分かる様な書き方をしないと、何かこういう事に携わっている方だけが分るとい様な事は納得ができない。</p>
議長	<p>一般の方がよりわかる注釈を入れるなど、新しい用語につきましてはお願いします。</p>
E委員	<p>「川西らしさ」とはなにかという事に関わるのですが、これまでの10年間の取り組み、これから先の10年を見通してという事で、これまでの総括として川西はどのような歩みをして来たのか、課題はこう挙がっているが、具体的に川西としてどのような実態があり、調査をしたらこんなふうに変わっている。経年比較をするとどのように変化をしていっているのか、その辺りの具体性が欲しいと思います。</p>
議長	<p>大局的な形での位置付けなどは問題はない様には感じた。「川西らしさ」と言われたが、川西の特徴ある部分とはということでは、人作りが一番の売りでなければいけないところだと思います。今さら宝塚市のような観光都市やお金が入る様な大工場をというわけにはいかないで、生涯学習、文化、人、育ちという部分をもう少し出した方が良いのではと思う。もう一つは、人権意識というか、子どもの育ちを大切にするという、これはやはり売りであると思う。そういう部分をもっと強調しても良いのではないかと思います。</p>
C委員	<p>「川西らしさ」と書いてあるからこう読んでも、別にこれが当り前の事であって、川西らしいとはどこだというのはあまり出てこないです。</p>

審 議 経 過

NO. 7

議長	<p>今回、事務局で出されているのは、多分、市全体でも出されていると思います。公民館活動の部分などはもの凄く誇って良いと思いますが、今の流れでいくと10年後は、どうなっているのかと感じています。市民参画という名のもと、地域コミュニティや地域の者で、公民館活動をやっているという、そういう一つのステーションとしての公民館。そういう流れが全国的に見てもあるので、逆にこれで大丈夫なのかということを強く出して欲しいという部分はあります。</p>
G委員	<p>一体誰のために作り、誰にこれを配布するのかというところが、私には理解ができません。どこをターゲットにしてこれをという部分をお願いします。</p>
事務局	<p>基本的には市民をターゲットとする部分だと考えております。最終的にこの策定につきまして市ホームページ等に掲載をしていく取り組みを今、しております。</p>
議長	<p>いずれパブリックコメントや市議会にも説明をしていかれると思います。</p>
F委員	<p>とにかく分かりづらいというのを先ず感じたという事ですね。</p>
D委員	<p>私もホームページに公開して一般の方が読まれても、何を言いたいのかなかなか分かりづらいと思いました。それと私が関わっている子どもや学校教育のところを読んでも、理想的な事が書いてあるとは思ったが、それが活かしていけるのか。特に今、図書館の学校司書で入らせて頂いているが、そういう司書というものを置いたということで終わってしまっていないのかと。それをどう活かすのかとか。そういう所をもっと深めて、細かい事を書くのも、どうなのかも分らないですが、何か形ばかりのことが書いてある様に感じました。</p>
H委員	<p>6頁の「家庭や地域の教育力の低下」というのがあるが、家庭の方も孤立化しているので、地域の中でそういう相談する場ができないのかという事は感じます。地域の教育力の低下ということがあるが、地域でリーダーになっている方も高齢化が進み、若い方に引き継いでいかないとしんどいと思う所があるが、なかなか引き受けてくれないなど、色々と計画しながら地域の中に入っていきこうという動きも薄れてきているというのを感じたり、そういうものをいかに作っていくかというところが必要ではないかと思ったりします。そういう点を盛り込むことができないのかと思います。</p>
B委員	<p>全部を網羅して入れていかないといけないというのは大変だったと思う。情報教育が今の私の専門なのですが、その中で13頁にあります「情報通信技術を活用した新しい学習機会の充実」の中の“メディア社会での情報管理”という所で「様々な危険性を知り」と書いてありますが、情報管理の重要性だけでなく、子ども達を取り巻くネットでの繋がりとかの危険性も大切ななと思いました。</p>
E委員	<p>5頁も出ている。ネットワーク社会の連携のところで「様々な危険性を知り」ですね。これも具体的にどのような危険があるのかを示した方が良いのではないかと感じます。また、それぞれの担当部署が基本の骨組みとしてはこれで良いと納得されているのか、それぞれの部でしっかりと見ておられるのか。</p>

審 議 経 過

NO. 8

議長	川西の生涯学習施策を市全体のものとしてやっていく柱的なものにはなるのですが、市独自の指針、方針として位置付けられているのかどうか。
A委員	10年の区切りがあるので、前半5年でここまでやるとか、最初の2年はこの目標を達成するのだとか各部署が掲げて実践していくというやり方はどうでしょうか。
議長	5年目にはこれを作りますというようなことが欲しいところなのですが。
A委員	小さな目標でもいいので、実現可能な目標を立てて、それを実現していく事で良い連鎖反応が起こっていけば良いなというふうに思う。良い連鎖反応を作る基礎を先ずどこかで作る必要があるのかと思います。
E委員	行政サイドは、そこまで書いてしまうと縛られてというのがありますが、市民の立場からいうと、見える様な形の目標が欲しいです。要は、「川西らしさ」で、川西市は率先してこの所を充実させます。計画はこうなっています。そのようなものが欲しいのです。上から下ろされてきたものをそのままやっているみたいなものではなく、実態調査をして、今までこんなふうになってきたから、もう1つここを乗り越えてハードルは高いけど、やってみようみたいなどころがあると、協力しようかなという動きが出るのではないかと思います。
A委員	この文章に載せると具体的な事が書けないと思う。具体的な事は、補足的な形でしていく方が良い。それこそおっしゃった様に縛られてしまう。しかし、一般市民としたら具体的な成果が目に見えると、川西に住んで良かったと思うと思います。
E委員	21頁の二.の所に「推進組織の整備・充実」いうのがあって“学習機会の効率化に向けた組織の整備・充実”で筆頭に“社会教育委員の会での指導・提言等”ということを書いて頂いているのは非常に有り難いと思うのですが、学校教育関係の生涯学習ですから、いわゆる教育とは関係のない分野で選ばれた一般市民の教育委員の方の関係も提言で入れないと、生涯学習にならないのではないかと思います。
議長	これ以上、具体的にはなかなかやりにくいだろうし、当然、生涯学習ラインだけで役所の中は回らないと思いますので、それぞれの部署の計画を聞かない事には筆が進まなくなってしまうと思う。突破的な部分で「川西らしさ」と出ましたが、これはいくらでも出す要素はあると思っています。施策についての方針の出し方などは、首長ラインの非常に強いリーダーシップを持った部分がありますが、実際、予算の話になれば本当にどうにもならない部分もあります。しかし、一番お金がかからなくてもやれるのは、人の部分ですから。
A委員	例えば「出会い」、「ふれあい」、「支え合い」、これを実行する案として、何月何日の何時に全員が家の外に出て、隣の人と握手するとか、そういうイベントをやったらお金がかからなくて済む。
議長	市民運動的な形の火付役などというのもあるのでしょうか。

審 議 経 過

NO. 9

G委員	<p>全部を出さないといけないというのはよく分りますが、市民がターゲットという所を基本に置くのであれば、最初の所などが分りやすい。位置付けがあったり、目的があったり、構成があったり、その部分で一番のメインになる部分に関しては幾つか柱を据えて、データを持って来てそのデータの下で、「川西らしさ」の部分をも具体的にある程度の所まで落とし込む。それ以外で網羅しないといけない所は、それはそれで押えていかなくてはならないですが、全て、あれもこれもやっていますというだけでは自己主張だけで、一般市民としては取りにくいので、アピールしたい所を幾つか決めて、説明を入れた方が分りやすい気がします。</p>
B委員	<p>11月に提出をされるということですが、私達に意見を求められているのですか。社会教育委員としてまとめて提出という事ではないですね。</p>
議長	<p>とにかく出るものは皆出していくという形にしたいと思っています。一本にしようという様な考えはございません。</p>
E委員	<p>この生涯学習策定というのはどこがやっているのですか。</p>
議長	<p>事務局としては教育委員会の社会教育室です。 最後に何か事務局の方でございませぬか。</p>
事務局	<p>全国社会教育研究大会徳島大会の開催について 日時平成26年10月23日(木)～24日(金) 会場徳島市 参加申込締め切り:8月22日(金)、社会教育室まで</p> <p>次回の第4回社会教育委員の会の開催について 平成26年9月24日(水)午前10時から202会議室で開催を予定</p>
議長	<p>以上で終わります。</p>